

安城市内景況調査結果 (平成22年4月～6月)

〈 業況回復の業種があるものの、依然先行き不透明 〉

1. 調査対象 対象企業数 会議所役員・会員事業所 349企業

2. 調査対象時期 平成22年4～6月期

(1) 前年同期(平成21年4～6月)と比べた今期の状況

(2) 今期と比べた来期(平成22年7～9月)の先行き見通し

3. 企業数内訳

	製造業	小売・卸業	建設業	サービス業	計
企業数	82	105	62	100	349
構成比	23.5%	30.1%	17.8%	28.6%	100%

安城市内の今期の業況判断D Iは、前年同期と比較し△23.2ポイント下降したが、製造業における業況判断D Iは唯一プラスとなった。

来期の業況判断D Iについてもさらに△3.2ポイントの下降を見込んでおり、回復に向けた先行きは不透明感のある予想である。

【産業別の状況】

- ・製造業では、業況判断・売上高が前年同期対比を上回ったものの、売上単価が△52.5ポイントとかなり大きく下回った。
- ・小売・卸業では、業況判断・売上高・収益状況が全産業内でも最も下回り、前年同期対比の△40ポイント以上となり、雇用人員が△4.3ポイントとなり唯一マイナスとなった。
- ・建設業では、売上高・売上単価が前年同期対比の△40ポイント前後とかなり下回っているものの借入難度は0ポイントと唯一横ばいとなった。
- ・サービス業は、売上単価・収益状況が、前年同期対比の△40ポイント前後とかなり下回っていた。



		全 産 業									
		製 造 業		小 売 ・ 卸 業		建 設 業		サ ー ビ ス 業			
前年同期対比	業 況 判 断	△23.2		13.5		△40.9		△25.8		△32.4	
	売 上 高	△25.8		13.5		△40.3		△38.7		△35.4	
	売 上 単 価	△42.2		△52.5		△33.1		△40.3		△44.2	
	資 金 繰 り	△23.7		△18.2		△34.0		△16.4		△21.6	
	借 入 難 度	3.2		5.0		2.3		0.0		4.4	
	収 益 状 況	△31.7		△9.8		△43.6		△29.1		△39.8	
	雇 用 人 員	5.1		15.0		△4.3		8.1		4.2	
来期の見通し	業 況 判 断	△26.4		△19.5		△24.7		△24.7		△35.1	
	売 上 高	△24.5		△12.8		△27.5		△22.6		△32.2	
	売 上 単 価	△34.5		△36.4		△27.3		△38.8		△38.0	
	資 金 繰 り	△21.2		△22.1		△16.5		△21.1		△25.3	
	借 入 難 度	△11.7		△11.7		△8.0		△22.7		△5.6	
	収 益 状 況	△30.7		△32.4		△28.0		△29.1		△33.3	
	雇 用 人 員	5.0		17.1		△4.3		3.2		5.4	

※D Iとは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」(好転、やや好転)した企業割合から、「減少」(やや悪化、悪化)した企業割合を差し引いた値である。例えば、売上で「増加」25%、「不変」60%、「減少」15%の場合のD Iは、25-15=10となる。

今後、四半期ごとに景況調査を実施いたしますので、ご協力の程よろしくお願いたします。

なお、詳しい指標は、当所ホームページの「景況調査」のページをご覧ください。